

令和5年（2023年）の富士山の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2023年の発表履歴

2023年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

○2023年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

萩原監視カメラ（富士山山頂の東南東約18km）による観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2～図4）

地震活動は低調に経過しました。

深さ15km付近を震源とする深部低周波地震は少ない状況で経過しました。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図5、図6）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められませんでした。



図1 富士山 山頂部の状況（2023年12月17日 萩原監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所、公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

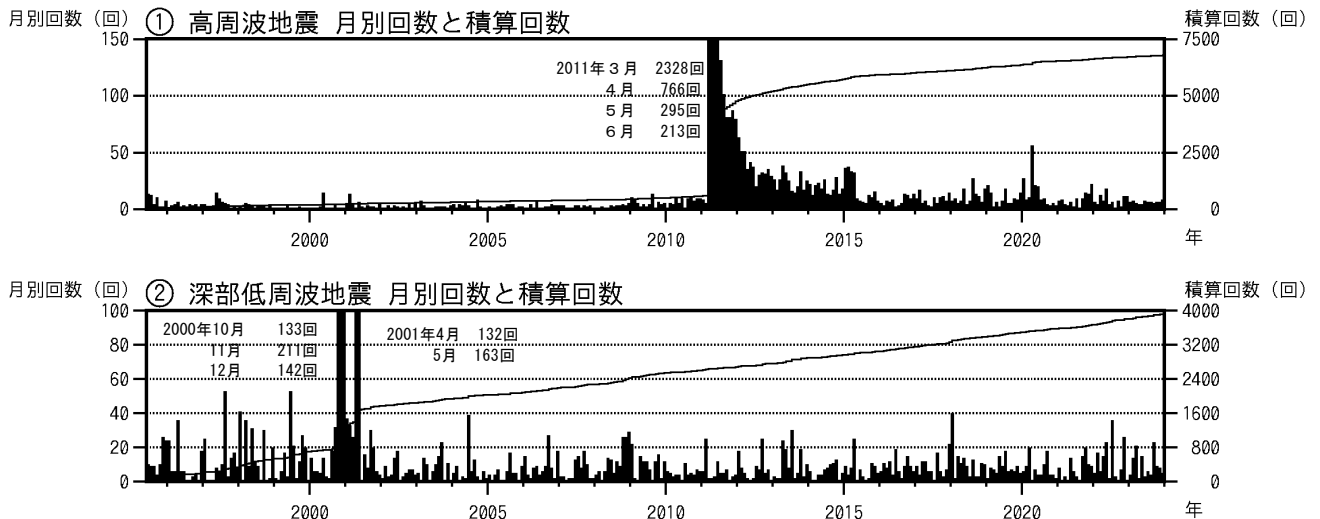


図2 富士山 月別地震回数（1995年6月1日～2023年12月31日）

① 高周波地震の計数基準

2011年3月22日まで 富士山頂上下動振幅 $0.5 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間 3.0秒以内
 2011年3月23日～（防）富士第5上下動振幅 $0.3 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間 3.0秒以内
 ただし、欠測等の場合は代替点（富士山頂、太郎坊）により計数しています。
 （防）は、国立研究開発法人防災科学技術研究所 を示します。

② 深部低周波地震の計数基準

広域地震観測網により震源決定された地震のうち、①と同じ基準を満たす地震。

- ・ 2011年3月15日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したM6.4の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。2016年以降、発生前の状況には戻っていないものの、低調に経過しました。
- ・ 深さ15km付近を震源とする深部低周波地震は少ない状況でした。

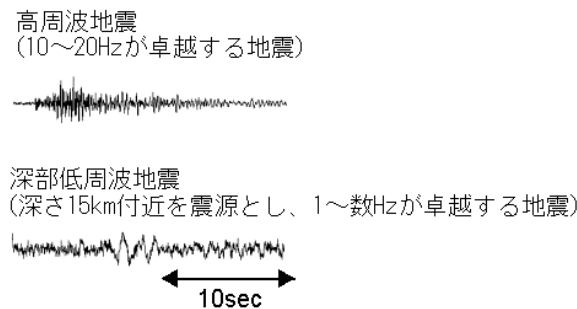


図3 富士山 発生している地震の特徴と波形例

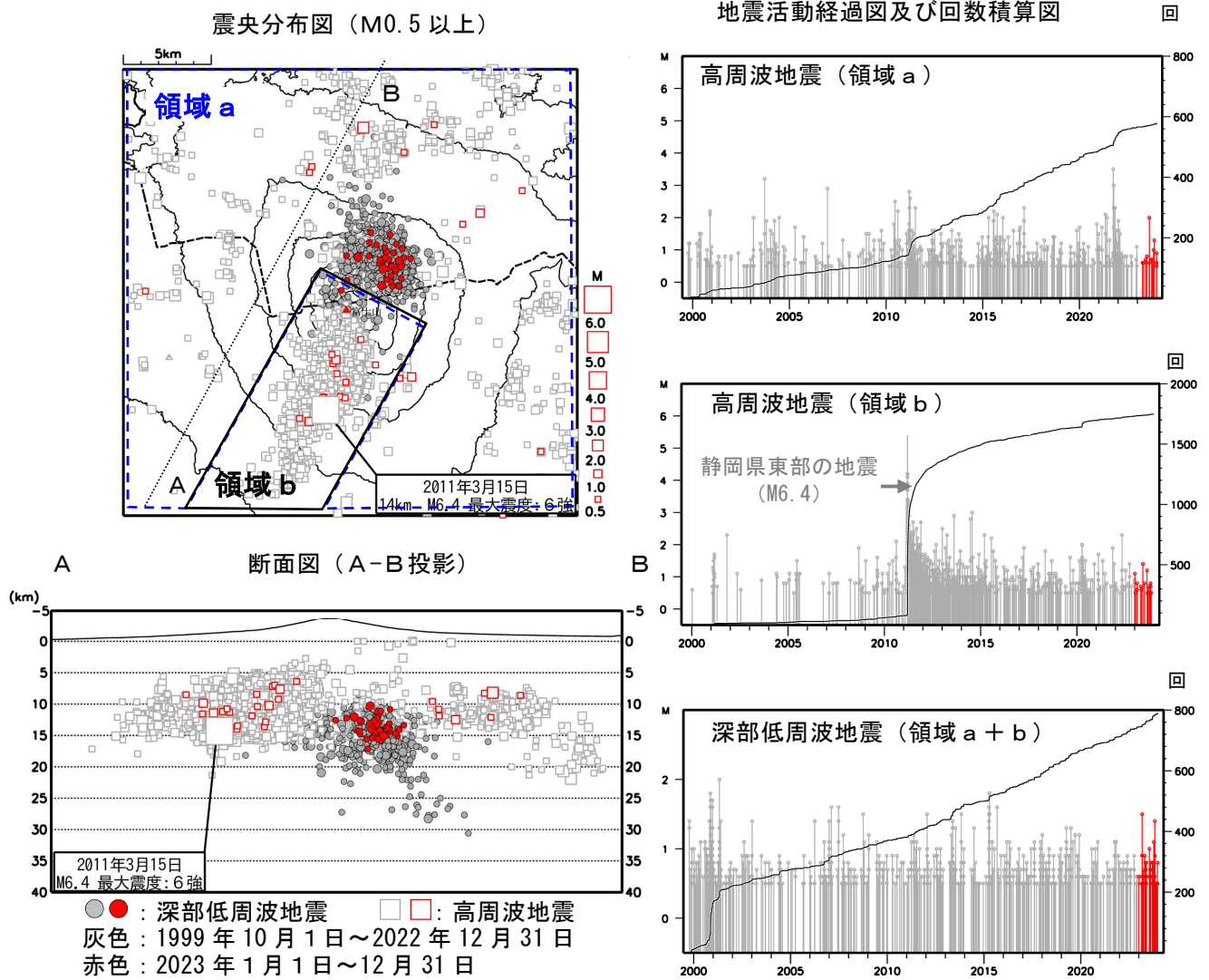


図4 富士山 広域地震観測網による山体及び周辺の地震活動(1999年10月1日～2023年12月31日)

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

M (マグニチュード) は地震の規模を表します。資料中のマグニチュードは一部暫定値も含まれており、後日変更することがあります。

- ・地震活動は低調に経過しました。
- ・2011年3月15日に静岡県東部(富士山の南部付近)で発生したM6.4の地震以降、領域bでは地震活動が活発な状況となっていました。2016年以降は、発生前の状況には戻っていないものの、低調に経過しています。
- ・深さ15km付近を震源とする深部低周波地震は少ない状況でした。

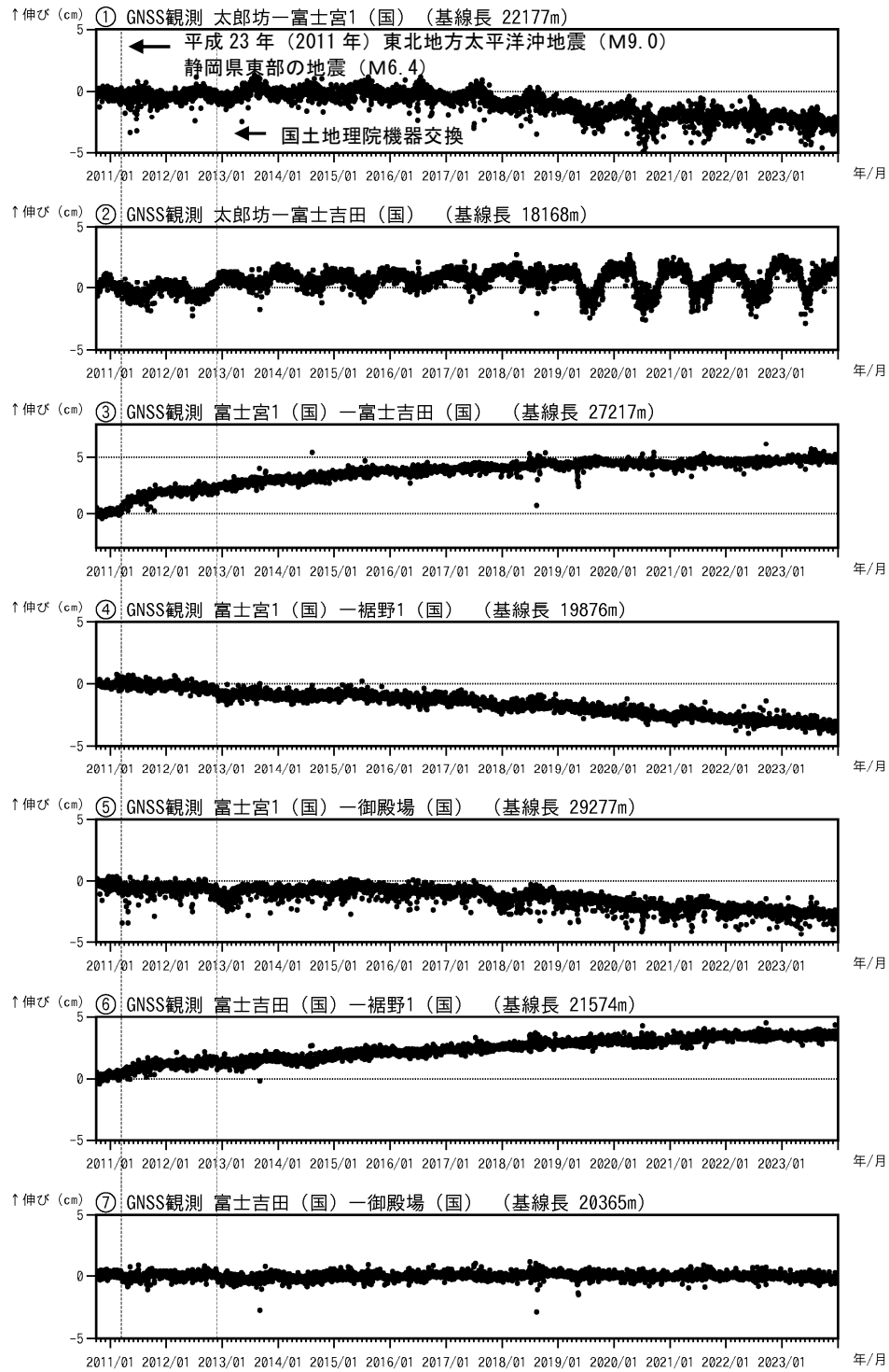


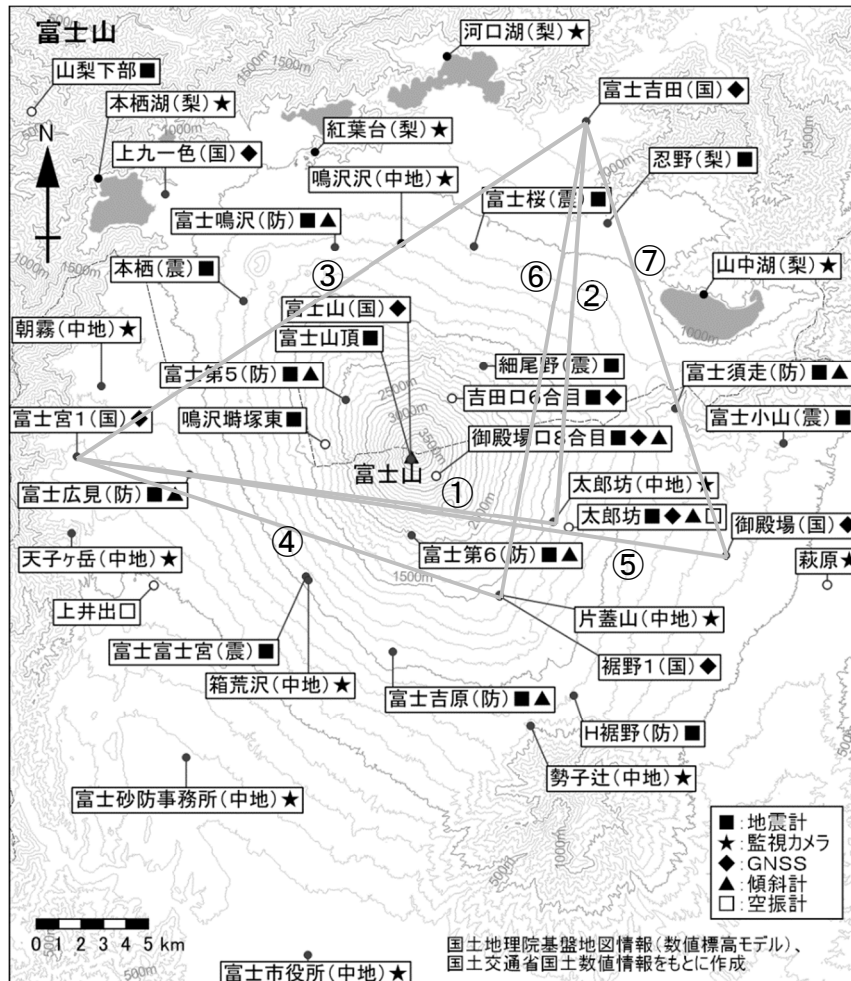
図5 富士山 GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月1日~2023年12月31日)

(国)は国土地理院の観測点を示します。

①~⑦は図6のGNSS基線①~⑦に対応しています。

「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」及び2011年3月15日に発生した静岡県東部の地震(M6.4)によるステップ状の変化を補正しています。

- ・火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(震): 東京大学地震研究所、
 (中地): 中部地方整備局、(梨): 山梨県

図6 富士山 観測点配置図
 GNSS 基線①～⑦は図5の①～⑦に対応しています。

表1 富士山 気象庁の観測点一覧

測器種類	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高(m)			
地震計	富士山頂	35° 21.64′	138° 43.64′	3772	0	1987. 8.25	
	御殿場口8合目	35° 21.24′	138° 44.38′	3235	-1	2002.10. 9	
	吉田口6合目	35° 23.11′	138° 44.85′	2403	-1	2013.11. 1	
	鳴沢罫塚東	35° 22.01′	138° 41.11′	1761	-1	2013.11.27	
	太郎坊	35° 19.99′	138° 48.28′	1284	-61	2010. 8. 9	
傾斜計	山梨下部	35° 30.05′	138° 32.47′	775	0	1994. 7. 5	
	太郎坊	35° 19.99′	138° 48.28′	1284	-61	2011.4.1	
空振計	御殿場口8合目	35° 21.24′	138° 44.38′	3235	-15	2016.12.1	
	上井出	35° 18.61′	138° 36.06′	485	1	2009. 8. 4	
GNSS	太郎坊	35° 19.99′	138° 48.28′	1284	1	2010. 8. 9	
	太郎坊	35° 19.99′	138° 48.28′	1284	3	2010.10.1	
	御殿場口8合目	35° 21.24′	138° 44.38′	3235	3	-	
監視カメラ	吉田口6合目	35° 23.11′	138° 44.85′	2403	4	-	
	萩原	35° 18.58′	138° 55.88′	480	-	2010. 4. 1	